

かざね
四万十の風音

しん せん
森&川だより

愛媛県松野町の小学校2校で年間を通した

森林環境教育を実施中

(松野西小学校・松野東小学校)

当センターでは愛媛県松野町の小学校2校(松野西小学校・松野東小学校)の三・四年生を対象に、年間6回程度の森林環境教育活動を教科書や学習指導要領とのリンクも意識しつつ計画的に実施しています。

1学期は、松野西小学校(児童数10名)では、「校庭の樹木学習」(6月7日)、「森林の働きと水はどこから水のゆくえの学習」(6月14日)、「木工クラフト学習」(6月28日)を実施しました。松野東小学校(児童数11名)では、「校庭の樹木学習」(6月18日)、「空飛ぶ種子学習」(7月2日)を実施しました。

「校庭の樹木学習」は学校の樹木に親しみを持ち、樹木の名前を覚え森林や自然環境への興味・関心を芽生えさせることを目的としています。校庭の樹木を観察しながら、センター職員が名前の由来や特徴、利用方法などを説明し、その後、各班に分かれて児童達が作った木製の樹木名板を取り付けました。

「森林の働きと水はどこから水のゆくえの学習」では、森林が、雨水を貯えきれいな水を育む仕組みや、災害を防ぐ、大気をきれいにするなど私たちの生活に欠かせない大切なものであることを説明すると共に、浄水場と下水処理場の仕組みや地球上の水をできるだけ汚さないように利用することの大切さ、日本の水は世界中

でも大変きれいで安全安心な水であることも説明しました。

「木工クラフト学習」では、最初に「木材の特徴」と題して木材の環境材料としての優れた特性について説明し、その後、木工工作の作り方や注意点を説明した上で、ヒノキムク板等を使用し「ハッピー小箱」の製作を行いました。釘打ちの合間に、ヒノキの香りや木製品特有の感覚に触れてもらいつつ、「皆さんの身の回りで木材が使われているものにはどんなものがありますか？」と問いかけ、教室の床、机、鉛筆、教科書、ノート、トイレトペーパーなど、身近で毎日触れている多くの物が木材から作られていることを学習してもらいました。

最後に、各自が製作した小箱に自由な発想で貝殻や木の実、木片、小枝などで飾り付けをして、「ハッピー小箱」を完成させました。

「空飛ぶ種子学習」では、いろいろな種子の観察、「アルソミトラ」や「ラワン」の種子模型の製作、「フタバガキ」や「テイカカズラ」、「イタヤカエデ」などの種子の実物を飛ばす体験を通して、その場から動けない植物があらゆる方法で広い範囲に子孫を残そうとする仕組み、花の蜜や果実に誘われて来る昆虫や鳥たちを利用した種子の移動について知ってもらいました。今後、種子のでき方など季節による樹木の変化や特徴等を観察することで学びを深めてもらいたいと考えています。

1学期の活動に対しては、児童から「スチレンシートで作った種子の模型が本物の種子と形や飛び方もそっくりでびっくりでした。」「送風機で、テイカカズラの綿毛を飛ばすのが楽しかった。」「タラヨウの葉っぱに釘で字が書けるのが不思議だった。」「何年も前の人の樹木の名札が残っていて、木が大切にされていたことがわかりました。」「私も木の名札を取り付けたのが心に残っています。いろいろな取り付け方をしたからです。」などの声をいただきました。森林環境教育実施後

の教職員アンケートでも、「社会科の学習や広見川に関する水質調査の学習につながりました。」などの評価をいただきました。

当センターでは教科書や学習指導要領ともリンクした森林環境教育を今後も進めていきたいと考えています。



校庭の樹木学習の様子（松野西小学校）



樹木名板設置の様子（松野西小学校）



樹木学習の様子（松野東小学校）



校庭の樹木学習の様子（松野東小学校）





完成した樹木名板（松野東小学校）



完成した樹木名板（松野西小学校）



樹木名板設置の様子①（松野東小学校）



樹木名板設置の様子②（松野東小学校）



水のゆくえ等の座学（松野西小学校）



卓上糸鋸盤作業の様子（松野西小学校）





木工クラフト学習の様子①（松野西小学校）



木工クラフト学習の様子②（松野西小学校）



種子模型作り（松野東小学校）



種子を飛ばしてみよう①（松野東小学校）



種子を飛ばしてみよう②（松野東小学校）



種子を飛ばしてみよう③（松野東小学校）

こどもと一緒に「カブトムシ・クワガタ
ムシの壁掛けや置物作り」
(こうち環境博 2024 のイベント)

7月27日、高知市旭町のこうち男女共同参画センター「ソーレ」で、「こうち環境博実行委員会」主催による「こうち環境博 2024 のメインイベント」が、高知県、高知市、教育委員会などの後援のもと開催されました。

実行委員会から、当センターが作成指導している木工小物作りが来場の子供たちに喜んでもらえそうだということで、他の出展団体の募集に先駆けてお声がけいただき、「かんたん木工教室」のブースを出し、参加しました。

○かんたん木工教室

当センターのブースでは、「身近な木づかいでSDGs」をコンセプトとし、センター職員が作成・準備した製作キット（四万十町の国有林で調達したヤマザクラやヒメシャラの小枝や輪切りのパーツ）を使い、各パーツを組み合わせたカブトムシ・クワガタムシの壁掛けや置物づくりを行いました。ヒノキの^{むくいた}無垢板にクロモジ・コルク等で枠をつくり、小枝や輪切りの木片などを重ねたカブトムシで飾ったりするもので、幼・保育園児や小学生が親子で延べ110名来場し、楽しんでもらいました。

また、ブース内で森林環境教育用に制作した4種類の紙芝居（自動再生版）を常時流したところ、スクリーンの前で真剣に見入っている児童もいました。

○その他イベント

環境博会場内では、宇宙から見たリアルタイムの地球のすがた「デジタル地球儀」、貝殻キーホルダー＆シェルボトルづくり、顕微鏡でミドリムシやアメーバなどミクロの世界をのぞいてみようなどのブース、おいしいもの大集合コーナー、ダンボール巨大迷路、エコな素材ダンボールクラフトづくりなど、魅力的なプログラムやワークショップのほか、高校生がゴミ拾いの成果やジビエ部活動を発表するステージなどが催されました。

また、県内各地では、夏休み期間中、いろいろな環境活動などを行う「はみだしイベント」も行われるそうです。

参加者からは、「親子で創作できたのが楽しかった。」「カブトムシ大好き、家で飼育している。」「昆虫が木で作れてメッチャ嬉しかった。」「気に入った作品が出来て嬉しい。」などの感想を多くいただきました。

多くの方々が来場したこのイベントを通じ、森林への理解や木育への取組みを効果的に伝えられた一日となりました。



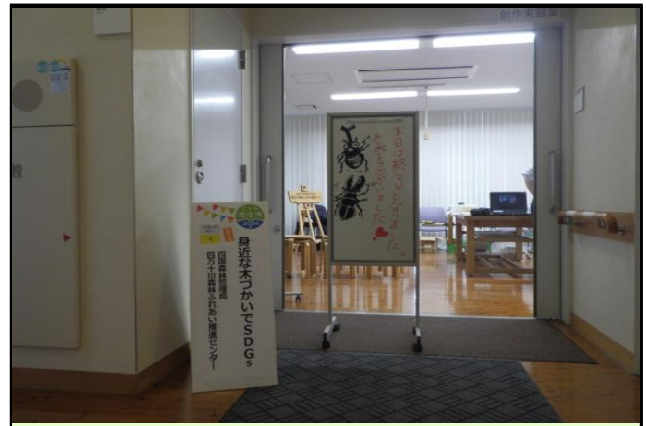
ブースの様子①



ブースの様子②



ブースの案内看板①



ブースの案内看板②



ブースの様子③



できたよ①



できたよ②



できたよ③



できたよ④



できたよ⑤

こうち環境博 2024

7月27日(土) 10:00~16:00

会場: こうち男女共同参画センター「ソーレ」
高知市旭町三丁目115番地

いろいろな体験コーナーや活動紹介で環境のことが楽しく学べます!

納涼ダンボール迷路 2024

おたのしみガラポン抽選会

はみ出しイベント 6月29日(土)~8月31日(土)

ソーレ! 活動の紹介や作品の展示 7月20日(土)~8月1日(木)

6/29(土)~8/31(土) はみ出しイベント

7/20(土)~8/1(木) ソーレ! 活動の紹介や作品の展示

7/27(土) ソーレ! メインイベント

6/29(土)~8/31(土) はみ出しイベント

7/20(土)~8/1(木) ソーレ! 活動の紹介や作品の展示

7/27(土) ソーレ! メインイベント



力を合わせてシカ防護網を再建

(OJTも兼ねて)

7月30日、当センターが滑床山にて行う自然再生事業について愛媛森林管理署の若手職員7名のOJTも兼ねる形で実施しました。

当センターでは、滑床山のミヤコザサやブナ等の広葉樹をシカ食害から防ぐなど植生保護を目的に設置したシカ防護柵の巡視点検を毎月実施していますが、この際に見つけた、ブナ等の枯損木による大きな被害箇所の新築について、当該地域を管轄する愛媛森林管理署宇和島森林事務所に応援の相談をしたところ、「当地域ならではの事業でもあり貴重な体験にもなるので、署職員にも参加してもらいOJTを兼ねた方が良いのではないか。」と地域統括森林官から提案があり、愛媛森林管理署と相談する中で実施に至ったものです。

○防護柵の修理新築作業

当日は、「鹿のコル」(「コル」とはフランス語の「Col du」(稜線上の鞍部との意味合いらしい。))に集合し、当センター所長から事業概要全般の説明、自然再生指導官から作業行程や修理方法についての説明、加えて、猛暑の折各々水分補給と適宜休憩をとるなど熱中症等を含む安全対策の指示を行った上で、登山口からブナ原生林へ向け登山を開始、その後40分程かけてブナ原生林へ到着し、小休止を行った後、林内に保管している維持管理用資材を各々で手分けして持ち、作業地へ移動しました。

作業地においては、再度修理手順の確認と安全上の注意点などを全員で共有し、落ち葉・土砂堆積による損傷や倒木の枝条の影響による損傷など、大小数カ所ある

修理箇所へ班別けを行い対応しました。最も規模の大きな谷沿いの修理箇所は6名での対応となりました。

一方、応援を求める発端となったブナ大木の倒木箇所では、ネットの再建にあたり何百キ口もありそうな倒木を安全に安定した箇所へ移動させる必要があります。男女混合となった班により力量に違いがあるものの、流石！若手職員の一致団結したチームワークにより、転動方向を予想しつつ、力の入れ具合、動かす方向なども息を合わせながら取り組み、支柱再建、ネット張り直し作業を互いに協力しながら無事に終わることができました。

○作業終了後のふりかえり

作業後若手職員からは、「シカ防護柵の内側と外側では植生状況の違いが大きいことに驚いた。」、「大変な作業で疲れたけど、林内の風が気持ち良くて清々しく、達成感も得られて充実した一日だった。」、「また手伝えることがあれば言ってください。」など頼もしい声も聞かれました。

足場が悪い中、慣れない作業で皆苦戦している場面もありましたが、今回の作業を通して、こうした地道な作業が植生を保護し自然環境の維持と国土保全にもつながる重要な取組であることを再認識し、当地の現状について理解を深めるなど今後の各業務においても役立つ経験になったものと思います。





ブナ林で説明する森自然再生指導官



シカ防護網にかかった枝条の撤去



シカ防護網の再建①



シカ防護網の再建②



支柱再建と張り直し



最後に入出口を増設して完了

四万十市内の小学校5校で夏休み

森林・木工教室を開催

今年度も四万十市子育て支援課より要請を受けて、夏休み中の森林・木工教室を行いました。8月2日に大用小学校のこども教室児童10名、8月5日に八束小学校こども教室児童9名、8月6日に中筋小学校こども教室児童19名、8月8日に蕨岡小学校こども教室児童15名、8月22日と23日には、具同小学校放課後児童クラブの児童計69名、合計6回、122名を対象に小学校や学童保育施設で実施しました。

○実施内容

最初に、紙芝居「森」^{もり}を見てもらい、スギやヒノキを植林した人工林は人が適切に手入れをすれば、水をたくわえ、きれいな空気を作り、災害を防ぐなどの大切な働きをして、私たちの暮らしを守ってくれることを理解してもらいました。

お楽しみの木工クラフト（山・川・海でつながっている生き物の壁掛け作り）では、作り方を説明してから見本を参考に自由製作としました。ファルカタ材（桐の代用品）やヒノキ材を使った魚や水生動物、昆虫等の各パーツにポスターカラー等で自由に色をぬり、接着剤でスギやヒノキの板に貼り付けます。貝殻、川石、小枝、木片等の自然素材やビーズ、コルク等も使って装飾してちりばめ、板にヒートンとカラーヒモやリボンを取り付けることで、思い思いの壁掛けを完成させました。

○おわりに

児童から「とっても楽しかった、ありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

今回の森林環境教育を通して、こども達には、森林の大切さを知ってもらい、板の香り、模様、手ざわりの良さなどをつうじて木に親しんでもらえたと思います。

また、四万十市からの要請に応え、子育て支援の一端にも貢献できたと考えています。



8月2日、大用小学校での様子



8月5日、八束小学校での様子



8月6日、中筋小学校での様子



8月8日、蕨岡小学校での様子



8月22日、具同小学校での様子



8月23日、具同小学校での様子



完成したよ①



完成したよ②



完成したよ③



完成したよ④



完成したよ⑤



完成したよ⑥

津野町2校合同森林・木工教室を開催

9月12日に黒潮町上川口の高知県立幡多青少年の家において、津野町の葉山、中央小学校の五年生44名を対象に森林・木工教室を開催しました。

今回は、津野町教育委員会が行う2校合同自然体験型合宿の中で、「ものづくりの楽しさと、木に触れる心地良さを体験し、森の恵みに感謝する心を育てたい。」との依頼を受け実施したものです。

最初に紙芝居教材「森林からの贈り物」を使い森林の大切な役割の学習を行いました。

紙芝居のページをめくる中で、「私たちの生活のあらゆる場面で欠かせない木や木材は、家を建てるときの主な材料となっていますが、皆さんの身の回りで木が使われているものはどんなものがありますか？」と質問すると、「鉛筆、教科書、ノート、トイレットペーパーなど」と元気に手を挙げて答えてくれました。そして、木や木材は私たちの暮らしを豊かにしてくれる物であると同時に、森林が私たちの生活に無くてはならない色々な物を生み出し、清らかで豊かな水を育み、空気をきれいにしてくれるなど、大切なはたらきをしていることを理解してもらいました。

お楽しみ木工クラフト（山・川・海でつながっている生き物の壁掛け作り）では、作り方を説明してから見本を参考に自由製作としました。ファルカタ材（桐の代用品）やヒノキ材を使った魚や水生動物、昆虫等の各パーツにポスターカラー等で自由に色を塗ったものを、スギやヒノキの板にアレンジを加えて接着剤で貼り付けます。貝殻、川石、小枝、木片等の自然素材やビーズ、コルク等も使って装飾をちりばめ、最後に板にヒートンとカラーヒモやリボンを取り付け、各々が思い思い

の個性豊かな作品を完成させました。

児童の代表から「森林の大切さがよく分かりました。今後も山・川・海の身近な自然を大切にしていきたいです。いろいろな準備をしていたただきどうもありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

今回の取組により、森林・林業への理解や興味が湧き身近なものとして児童達に感じ取ってもらえたのではないかと考えます。

四万十森林管理署と四万十川森林ふれあい推進センターでは、引き続き人材育成の面からも教育委員会など教育機関の要請に応え、連携して児童・生徒を対象とした森林環境教育への支援活動を推進していきます。



紙芝居教材を使った学習の様子①



紙芝居教材を使った学習の様子②



木工クラフトの様子①



木工クラフトの様子②



木エクラフトの様子③



木エクラフトの様子④



完成したよ①



完成したよ②



完成したよ③



夏の思い出、記念撮影

宿毛小学校で森林環境教育を実施

宿毛市立宿毛小学校から森林環境教育（森林・木工教室）の要請を受け、9月26日は三年生2クラス計65名を対象に、また、10月15日は四年生2クラス計59名を対象に、それぞれ午前午後の2回ずつ実施しました。

○三年生の実施内容

森林教室では、紙芝居教材「森林からの贈り物」を使い森林の大切な役割の学習を行いました。

紙芝居のページをめくる中で、「私たちの生活のあらゆる場面で欠かせない木や木材は、家を建てるときの主な材料となっていますが、皆さんの身の回りで木が使われているものはどんなものがありますか？」と質問すると、「鉛筆、教科書、ノート、トイレットペーパーなど」と元気に手を挙げて答えてくれました。そして、木や木材は私たちの暮らしを豊かにしてくれる物であると同時に、森林が私たちの生活に無くてはならない色々な物を生み出し、清らかで豊かな水を育み、空気をきれいにしてくれるなど、大切なはたらきをしていることを理解してもらいました。

木工教室では、カナヅチやクギ、ボンドの使い方や木工工作の作り方、注意点を説明した上で、ヒノキムク板を使用した「ハッピー小箱」作りを行いました。釘打ちの合間に、ヒノキの香りや木製品特有の手触りの良さといった感覚に触れてもらいつつ、最後に、各自が製作した小箱に自由な発想で貝殻や木の実、木片、小枝などで飾り付けをして「ハッピー小箱」を完成させました。

○四年生の実施内容

四年生の森林教室は、今回も地域での地球温暖化防止の取り組みを推進している高知県地球温暖化防止活動推進グループ「うみのこども」の村上さんに担当していただきました。

そして、「森のやさしさについて」と題して、「まず皆さん目をつむって森の中にいる状態を想像してください。」と児童たちに話しかけるかたちで、空気をきれいにする、水をつくる、生き物のすみか、災害を防ぐなどの森林のはたらきを説明し、森と人間とあらゆる生き物など、お互いが助け合えるたくさんのやさしさが一つになって大きな森という自然ができていることをわかりやすく説明してもらいました。

木工教室では、三年生と同様に、各注意事項を説明し、各自が製作した小箱に自由な発想で貝殻や木の実、木片、小枝などで飾り付けをして「鉛筆立て（小箱）」を完成させましたが、四年生の場合は、三年生と異なり、各部材の強度を保つためか釘の本数を増やした児童も多く、飾りとしての釘打ちも楽しんでいました。

両日とも、児童の代表から「森林を大切にしていきたいと思います。小箱を作るのはとっても楽しかったです。どうもありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

後日、学校より教職員アンケートの送付があり、「四年生で本格的に水の循環や森林の重要性について学習するため、その学習につながる良い学習でした。また、三年生でカナヅチの使い方を学習するため、とてもよい経験学習となりました。」

「どの子もいきいきと活動に臨むことができ完成した作品も喜んで持ち帰っていました。」と評価していただきました。

当センターでは、引き続き、教科書とのリンクなど学校等教育機関の要請にも応

えつつ児童・生徒を対象とした森林環境教育への支援活動を推進していきます。



自前のイラストを使って挨拶する所長



四年生、村上さんの森のやさしさの座学①



四年生、村上さんの森のやさしさの座学②



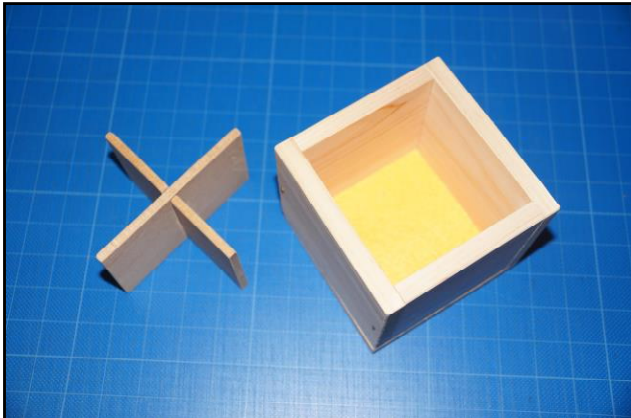
三年生、紙芝居教材を使った学習の様子



三年生、ハッピー小箱作りの様子



四年生、鉛筆立て作りの様子



四年生、鉛筆立て完成したよ①



四年生、鉛筆立て完成したよ②



三年生、ハッピー小箱完成したよ



三年生、ハッピー小箱完成したよ

四万十森林管理署職員がふれセンへ手伝い
に来てくれました。
(森林環境教育の体験型OJTを兼ねて)

四万十森林管理署と森林環境教育の実施計画を情報共有し、若手職員の体験型OJTとしてスキルアップを図りつつ、双方の業務負担の軽減にもつながる取り組みをしています。



体験型OJTの様子①



体験型OJTの様子②



体験型OJTの様子③



体験型OJTの様子④

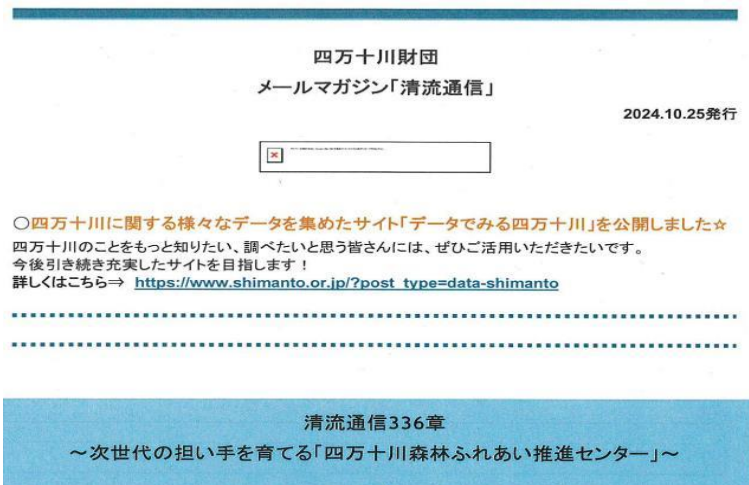


体験型OJT（蕨岡小学校での）様子⑤

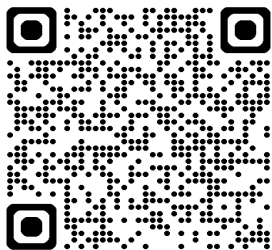


体験型OJT（上川口小学校での）様子⑥

公益財団法人四万十川財団のメールマガジン「清流通信」に、当センターの活動内容が掲載されました。



ふれセン、ホームページ



森林の環（もりのわ）応援団

農林水産省 四国森林管理局

四万十川森林ふれあい推進センター

所在地：〒787-1602 高知県四万十市西土佐西ヶ方 586-2

ダイヤルイン：0880-31-6030

メールアドレス：shikoku_fureai@maff.go.jp

